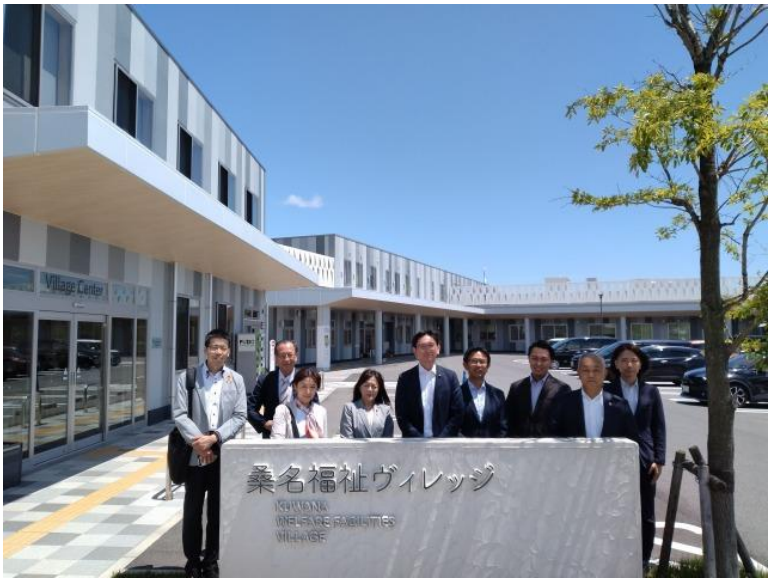
総務常任委員会　2024 年度視察　三重県桑名市　　2023.5.8 実施

町田市議会議員　総務常任委員　吉田つとむ

目的：事務処理の効率化について
視察先：桑名福祉ヴィレッジの視察



村松委員長の挨拶

中川副委員長の挨拶

（桑名市の概要）

歴史的には、東海道五十三次の中で海路になっている部分が桑名、昔から交通の要衝になっていたが、東海道線や同新幹線、あるいは東名高速の路線から外れ、全国的な知名度が下がる。

「東海道中膝栗毛」でも弥次喜多さんが登場し、海路旅や焼き蛤の話題があり、あるいは、森の石松の金毘羅参りの船旅でも有名な桑名であるが、今の若い世代の新しい感覚には通用しない側面があるかも知れない。

その旅の関連でお伊勢参りの街道は、餅街道と呼ばれ、桑名では安永餅が有名であったと言い、全国的には伊勢の「赤福」が知らぬ人はいないほどに有名になっている。

私の世代では、今から 60 年ほど前に起きた近代では最大の伊勢湾台風で大被害を受けた地帯であり、その被害を最も受けた地域が大河川の下流にある輪中の長島町が歴史に残っている。また、その長島町は 1960 年代に長島レジャーランドが開設され、全国に名が知れる。現在のナガシマス

パーランド、ナガシマリゾートを形成していると言うが、中京圏にその知名度が留まっている。その長島町は、現在では桑名市に合併していることをいただいた桑名市の観光パンフレットによって知った。

（施策の説明）

子どもから高齢者、さらに障がい者までを対象にした、（総合）福祉施設で構成され、それらが総合的に運営されていた。運営は、桑名市社会福祉協議会であったが、これだけ多様な事業を集約した取り組みは珍しい。

この施設は「多世代共生施設らいむの丘」と言い、桑名市社会福祉協議会の主要事業の一つを構成している。

＜構成＞

ライムの丘

総務部門がある。多数の視察を受けている。

ライムの丘ハイム

母子生活支援施設

シルバーサポートライムの丘ハウス

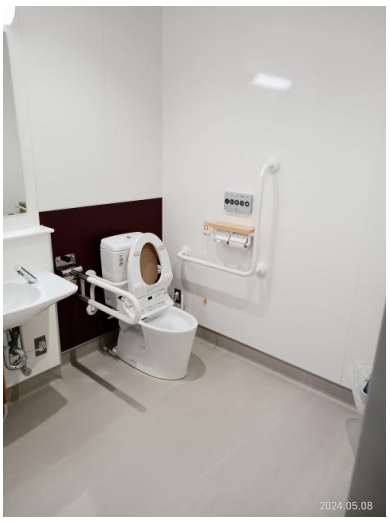
養護老人ホーム。措置入所の施設。

右手は、シルバーサポートライムの丘ハウス

ライムの丘保育園
　　定員 90 名の保育園、養護老人ホームに接続する
相談支援センターライムの丘
　　障害者（児）のサービス等利用計画についての相談および作成
ケアプランセンターライムの丘
　　介護サービスの中で、居宅介護支援の事業を行う
ナーシングセンターライムの丘
　　障がい者の生活介護を通所で行っている。季節行事・リハビリ等を実施。
児童発達支援センターライムの丘
　　0 歳から 18 歳; 対象地域：桑名市内と周辺自治体。デイサービス。
ヴィレッジセンター
　　事務所と共用スペースがある。
ライムショップ
　　施設の入り口にある店舗。生協商品、パンの直売、おにぎりや弁当を販売。

＜建設＞
　この種の施設に実績を持つ大手の大和リースが担当。周囲の公園整備も含まれる。施設の内容は大和リースが提案したものである。

＜主要な説明＞
　桑名市と桑名市社会福祉協議会が話し合い、大和リースに建設を依頼する。建設後の運営は桑名市社会福祉協議会が桑名市から全面的に依頼を受ける。そのため、施設の貸借料が 0 円に設定されている。
　ここの高齢者施設である「シルバーサポートライムの丘ハウス」は、いわゆる「特養」ではなく、養護老人ホームであり、生活環境や経済的に困窮した高齢者を擁護し、社会復帰させるというのが目的とされる。そのため費用は 0 円から 14 万円とされている。定員 50 名で、完全個室が基本で、夫婦部屋が 2 居宅置かれる。介護ベット付き。
　その基本になっているのは養護老人ホーム桑名市清風園で、その施設と業務を引き継いだ施設となっている。



トイレを見せてもらう

　隣接して保育所が同じ敷地内の続きの建物に保育園が入居する。0 歳から 5 歳児まで合計 90 名が利用する。

　　多種類の通所施設と入居施設が一体、同じ敷地の中に円形の建物になっており、その内部が駐車スペースになって効率的な配置とされている。

（所感）
　所管的には、健康福祉常任委員会と思われる分野が視察対象であった。目的の「事務処理の効率化について」として選定されたものであろう。

　場所的には、桑名市自体が名古屋都市圏の中で通勤地域になっているが、その中でもこのエリアは道路網が整備されており、比較的戸建て住宅圏の中にある。都市高速道路にもつながる道路沿線には、ところどころの商業施設があり、その高速道路インターそばには最大級のイオンモールがあり、周辺の生活利便性を高めている。今回の視察においては、その名鉄名古屋駅と郊外を結んだ路線バス（都市部は停車をせず、高速走路を走る）を使用する。首都圏で利用する区間急行の感覚を受ける。＊ただし、バスであるために使用料金は高めとなっている。
　その住宅地も新興とはみなせるが、近隣に公団住宅（最寄りのバス停名が公団住宅前である）があり、周囲には高齢者層も増えていると思われたことで、名古屋駅まで日々の生活圏としない人の需要予測が立てられているのだろう。

　業務の効率化では、施設型と通所型が同一場所にあり、その運営を単独の桑名市社会福祉協議会が担当しており、その目的を果たしていると思われる。しかも、建設の仕様が広い敷地の中に円形で立てられており、各施設と統括の事務所部分が短距離で結ばれる合理性が一目で確認できる。

　この施設の業務は大半が行政の受託業務であり、その運営はそれらに専門的に従事してきた人であれば、相応の能力で対応できるものであろう。
　ところが、「ライムショップ」は一般販売を行う店舗であり、その経営、運営をどの様に行っているのかを尋ねると、疑問点があった。しかし、実際にその店舗の店内に正午前に立ち入ると、おにぎりや弁当を買う人があった。
　この施設で働く人は最低でもフルタイムの就業者だけでも 100 人以上はいるはずで、マックスだとその倍はいるだろうし、それらの人の昼食、あるいは食事分だけで相応の売り上げに上ることが予測されるものであった。その「ライムショップ」の隣が、ビレッジセンターがあり、事務所部分と共用スペースがあり、Wi-Fi の利用ができるスペースになっており、面談用のテーブルが設置されており、昼食、軽食を取れる体制になっていた。
　それらのことから、「ライムショップ」の店舗としての収入がある程度見込めるとみなされた。
　説明によると、近隣の住宅地の生活者の人たちが生協商品を（会員でなくても）買えるようになっているという。
　ちなみに、私は障がい者施設で作った菓子を購入した。

らいむショップ
営業時間
9:30～
16:00

2024.05.08

お買い物の
ナビゲーター
営業時間
9:30～
16:00
2024.05.08

¥350
nozomi
original sweets
¥350
nozomi
original sweets
2024.05.08

ポンプ室
2024.05.08

施設の周りは公園になっているが、遊具は無い。施設外にその一帯を土地開発した時代に区画したエリアに児童公園があり、そこに遊具がある。写真の中央後方部分。

なの、この大規模らいむの丘が出来た背景には、この福祉施設の土地は、戦後間もない時期に、山崎氏という方から寄付を受けた場所であったこともベースになっていると聞き、ことの端緒になってくれた人物があってことだと言う理解が立った。